

1832号



発行所 環境新聞社

東京本社 ☎(03)3359-5371
〒160-0004 FAX(03)3351-1939
東京都新宿区四谷3-1-3
(第1富澤ビル)

大阪支社 ☎(06)6252-5895
〒541-0054 FAX(06)6252-5896
大阪市中央区南本町3-4-8
九州支局 ☎(092)811-7008
〒814-0176

福岡市早良区四箇田団地4棟114号
振替口座 00150-5-20286
年間購読料 25,200円(税込み)

©環境新聞社 2006

The Environmental News

竹抽出物がノロウイルスに不活性化効果

近畿竹資源コンソーシアムが確認

竹資源の有効活用・事業化を目指す「近畿竹資源有効活用コンソーシアム」(代表・切畑光統大)の竹エ

クス作業部会はこのほど、企業メンバーであるフードテックス(大阪府吹田市、清岡久幸社長)の竹抽出物がノロウイルスに対して、その働きを失わせる不活性化効果があるとする試験結果を発表した。食品添加物用に開発されたもので安全性も高く、スプレー噴霧などで食品や人体への消費も可能なため広範な利用が期待される。

衛生研究所に検査を依頼。ノロウイルスの代替であるネコカリシウイルスで評価を行った。ネコカリシウイルスF9株に同竹抽出物を混和すると三〇秒後にウイルスは三乗以下に減少、五分以内に完全に不活性化効果が確認されたという。

ノロウイルスへの感染対策は煮沸や次亜塩素酸ナトリウムなどが有効だが、現実的な消費は困難で、作業現場でもノロウイルスに効果的なエタンール製剤の導入が要望されていた。